

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300177		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宇城市松橋町松橋1621-1		
自己評価作成日	令和5年2月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は同敷地内に隣接するグループホーム・ドリームまつばせの姉妹施設として開設し8年が経過しました。隣接する保育園児達の笑い声、季節を感じられる自然、明るく清潔な環境がある中で入所者様は笑顔で穏やかに生活されています。
職員も入所者様及びご家族様の安心・満足を得るべく日々個別サービスの提供や種々の年間行事(日帰り旅行、お花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会等)の提供に連携して取り組んでいます。又、職員は自己のスキルアップを目指し研修や勉強会に参加することでサービスの質の向上にも努めています。
職員と入所者様が一緒に外出や家事作業・レクリエーション等を楽しんでいる活気と清潔感のある施設

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が日中過ごすデイルームは、採光や風通しが良く、清潔感もあり心地よい環境となっている。リビングに居ながら、隣接する保育所の園児が散歩する様子を見て、日常的にふれあい交流するなど、楽しみが多い。職員と入居者は、一緒に下ごしらえなどして調理し、食事も一緒に食べ、午後は洗濯物を畳むなど家庭的な生活が営まれている。毎月開催の職員ミーティングでは、法人代表・ホーム長も参加して情報伝達・共有・意見交換等を行い、より良いサービスのために取り組んでいる。訪問当日、大きなソファに3人並んで、一つのブランケットに包まってウトウトとしている入居者の様子が見られ、ゆったりと安心した生活が確保されていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に見える化を図っている。又、定期的ミーティング等で5つの理念を掲げ、職員への理解、共有を徹底し、実践へつなげている。	理念は5つの文章で表現されており、毎月のミーティングで確認している。職員は笑顔で寄り添い、入居者が清潔な環境で四季の変化を楽しみながら、安心して生活が出来るよう、理念に添った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地元小学校への雑巾寄与を実施。職員と入所者様は清掃活動への参加にて地域との交流に取り組んでいる。今年度は同地区内の他事業所からの要望に応え短期入所の受入も対応した。	コロナ禍は様々な交流が中止となっているが、小学校への入居者手作りの雑巾の寄付は継続している。コロナ終息後は、近隣を散歩したり、宇城市の企業クラブのボーリング大会に参加するなどして、以前のように交流を再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当事業所の取り組み、認知症の方への支援方法、考え方等を発表することで地域の方へ発信、展開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ドリームまつばせと合同の運営推進会議では施設での活動実績報告、身体拘束の有無等報告はもちろん、近隣地区や市との情報・意見交換を行い施設内でのサービスへ展開するようにしている。	今年度も対面による運営推進会議が開催され、ホームから活動報告や入居者の状況報告が行われている。また、職員が、介護の専門家として「ケアプランについて」「認知症による妄想とは」等、毎回テーマを決めて地域を代表する委員に解説し、認知症への理解が深まるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新書類等の提出は担当が行政へ出向き、又来訪時も直接対応することで信頼関係を築いている。運営推進会議での意見交換等でも協力関係を築いている。	運営推進会議には市職員が毎回参加しており、ホームの状況を把握している。また、職員が必要に応じて書類等を持参しており、担当課とは顔なじみでもあり、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、全職員へその内容を理解させたくて見守り重視のケアにて安全に配慮しながら日中の玄関開錠等身体拘束しない支援に努めている。	高齢者虐待や、身体拘束等について勉強会を開催し、学ぶ機会を確保している。運営推進会議では、「身体拘束状況」として毎回、実績ゼロの報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会への参加、勉強会にて理解を深め徹底し連携することで虐待防止に努めている。ミーティングでは過去の他施設での虐待事例の件も取り上げ話し合った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて制度への理解を深め、必要な場面で助言、活用が出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は「重要事項説明書」に基づき資料読み合わせ実施、説明内容について疑問点など質問も受け付け十分納得して頂いたうえで承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置。常に利用者様やご家族の意見を傾聴し反映出来る体制を整えている。来訪時には入所者様の日頃の様子をお伝えし信頼関係を築くようにしている。	入居者の暮らしぶりを撮った写真を多く取り入れた「まごころだより」を毎月発行して家族に送り、コロナ禍で面会が制限されている期間でも安心してもらえるように取り組んでいる。意見箱は設置されているが、意見はほとんど入らない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは上司からの連絡事項や注意事項の提示他、職員からも意見や要望を揚げてもらい話し合える機会を設けており、運営改善やサービスの質の向上に反映出来るよう努めている。	毎月1回、法人代表・ホーム長・全職員参加のミーティングを開催しており、それぞれの立場からの情報提供と意見交換が行われている。設備に関しての要望や、日帰り旅行の検討等、職員の意見が反映される体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況把握・評価に努め、資格取得手当てや昇給、職場環境の整備等職員がモチベーションを上げ働きやすいような環境を提供出来るよう推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実務経験や力量に応じて、昨年度は初任者研修の受講、本年度は実務者研修の受講・介護福祉士試験の受験と資格取得の機会を確保しスキルアップを推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者や職員の同業者との交流と情報交換を目的に地区のブロック勉強会やミニバレー大会等への参加を推進している。現在はコロナの影響で対外交流の機会を消失している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は以前ご利用されていた病院や他のサービス事業所より情報提供して頂き、又ご本人や家族との面談にて不安や要望等傾聴することで気持ちを汲み取り、安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご家族様の不安や要望等傾聴し、当施設でのサービス内容、今後ご家族様へ協力して頂く内容等納得し安心して頂ける説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様及びご家族様との面接にてアセスメント情報収集、分析したうえで今後の要望や目標等お聞きしケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの得意分野や生活パターンを理解したうえで一緒に掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等の家事作業を行ったりフォローすることで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時は絆を深められるような落ち着いた環境を提供し、又日頃の様子や体調等をお伝えし、双方から入所者様を支えていけるよう心掛けている。定期病院受診はご家族が同行されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には今まで通っておられた病院受診を支援し、馴染みの方からの面会も受け入れ以前の関係が続くよう配慮している。ご家族と以前の自宅へ帰省される方もおられる。	親戚、近所の方、知人等の来訪は、ウッドデッキの柵を挟んで面会を行い、馴染みの関係継続を支援している。また、夫の月命日には、お坊さんに居室で法要をお願いする方もおり、それぞれの思いに沿って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立されたり、入居者様間のトラブルで不快な思いをされないよう常に見守りし、時には入居者様同士と一緒に楽しめるレクリエーションを提供し関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様退所によりサービスが終了したご家族へもアルバム提供、葬儀参列、今後の相談受け等良好な関係性が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での拘りや意向を確認するような声掛けに努めている。自立度の高い方の意向確認はもちろん意思表示が困難な方にも意向を確認するよう努めている。	全職員が、日頃の支援の中で聞き取ったこと、感じたこと、気付いたことなど、その日の個々人のトピックスとして、タブレットの中の日誌に書きこみ、共有するシステムがある。収集された情報をヒントとして役立てて、本人本位の支援となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用されていた介護サービスや病院のサマリー等を職員全員で確認している。又、ご本人様との日々の会話の中から過去の生活や拘りについてお聞きすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や健康状態を観察し記録に残すことで職員全体で情報共有するようにしている。又必要な時に話し合いの場を儲け現状に合った支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全職員にモニタリングしてもらい、又ミーティング時にも課題を提示してもらうようにしている。管理者、ホーム長、本人やご家族で話し合い、ご本人の現状に即したケアプランを半年に一度見直し作成している。	全ての職員に一人の入居者を割り当てて毎月モニタリングを実施している。計画作成担当者は、6か月分のモニタリングと、ミーティングで出された気づき等も考慮して、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりその日の体調や日常生活の様子等職員全員でモニタリングし記録アプリへ入力している。急変等気づいた点はその都度職員間で情報共有し、支援内容の変更に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	掛かりつけ専門医への受診、ご親族等との急な面会や外出要望等個別対応にて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣散歩で園児や小学生を見たり近くの公園等へドライブし季節を感じたりすることで地域資源との関わりを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医による往診を受けて頂き健康状態をチェック他、体調不良や急病時その都度往診依頼にて対応して頂いている。体力低下への対応や処方薬の変更等は往診時に主治医の先生に相談出来ている。	入居前からのかかりつけ医の継続は、自由となっているが、殆どの入居者が往診を受けられる協力医を主治医としている。主治医による月2回の往診で健康チェック、薬の処方が行われており、適切な医療を受けられる環境が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けて頂き日常の体調管理に努めている。体調の変化等気になる点はその都度看護師へ相談し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の留意点を情報提供。入院中も病院側からの質問にお答えし、退院時は病院相談員の方に入院中の情報提供して頂き早期の復帰に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者様はご本人及びご家族様の希望に添えるよう十分話し合い、訪問看護や主治医と連携を図りながら又、職員内でも連携し最後まで看取れるよう努めている。(入所時に説明しご家族の同意書あり)	「ターミナルケアにおける指針」を整備し、入居時に説明し、同意を得ている。ターミナルケア・グリーフケア等について勉強会を行っている。終末期は、主治医の指示の下、訪問看護と連携して、入居者と家族の思いに沿っての看取りとなるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応についてはマニュアルを整備済み。AEDの訓練も定期的に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、災害時にスムーズに避難誘導出来るよう消防署より指導を受けている。又、設備(警報機やスプリンクラー等)の定期点検、消火器の使用訓練も実施している。今年度は近隣の方にも参加頂いた。	年に2回、災害避難訓練を入居者も参加して実施しており、うち1回は、消防署の立ち合いで行い、消火器の使い方、避難誘導に関してのアドバイス等を得ている。消火器・警報機等は設備会社により定期的な点検が実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様を人生の先輩として尊重し言葉使いや接する距離間に考慮している。入浴時や更衣時の見守り、トイレ誘導時は羞恥心に配慮し対応している。	入居者を敬い、尊厳の心をもって対応することが職員間の共通認識となるよう、勉強会等を通して伝えている。排泄時は扉を閉める、訪室する時はノックをするなど、プライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	個人の尊重・プライバシー等について、定期的に研修する機会を確保することで、職員の意識醸成に繋がると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の想いをなかなか言葉に出来ない方には表情から意向をくみ取ったり選択肢を提示したり単語を繰り返した了承を得る等働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在自立され自分のペースで過ごされている方が多いが、一人ひとりの拘りを大切に居室やDルームで穏やかに自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時等ご本人と一緒に好みの服を選び、整髪・整容時は本人様の表情や言葉に注視し喜んで頂けるよう配慮している。又、施設内にて訪問散髪も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には食べたいもの等リクエストに応えたり、季節によって料理に変化をつけたり、食材の下ごしらえを一緒にしたりしている。片付けも職員と入居者一緒に作業している。お弁当やバイキングを楽しむこともある。	職員がメニューを考え、食材買い出しを行い、調理は職員が主となり、入居者も手伝って行い、食事は一緒に食べるなど、大きな家族の食事風景となっている。誕生日は大きなケーキで祝い、夏はそうめん流しを楽しんだり、土用の丑の日はウナギを食べるなど、美味しく楽しい食事の支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食や刻み食、強めのとろみや弱めのとろみ、栄養状態や摂取量等入居者様一人ひとりに合わせて工夫し食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。困難な方は職員が介助し清潔保持に努めている。必要に応じて訪問歯科診療をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方へは時間見てトイレの声掛けを行ったり、介助が必要な方は時間を決めてパットの交換を実施している。失禁される方は布パンツとリハビリパンツの併用で対応している。	排泄チェック表に記録して排泄状況を把握し、それぞれのタイミングに沿った声掛け・誘導を行っている。状態に応じて、緩下剤等を提供し、快適な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量を把握しながら提供している。適度な運動を行ったり、排泄記録をもとに緩下剤の服用を行いコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、ご自分のペースでゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。職員と会話しながら入浴を楽しむ雰囲気作りを心掛けている。時間希望される方へも希望に沿うよう対応している。	入浴は週3回を基本としている。自立の方でも、転倒等のリスクに備え、脱衣所でカーテン越しに見守り、プライバシーに配慮している。しょうぶ湯・ゆず湯等、季節感も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファーや居室で自由に休んで頂き、夜間帯もエアコンや寝具調整にて適温を保ち安眠出来るよう支援している。体調に配慮し昼間臥床して頂いてる方も居られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て職員が管理し、服薬時はお一人おひとり確認し声掛け提供している。体調変化に留意し主治医の診察に寄与できるよう職員連携して確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等の家事作業で役割を持って頂いたり、ラジオ体操やレクリエーション等で楽しみながら体を動かして頂いている。気候に応じて散歩も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の日帰り旅行の他、お花見やお祭り見学などドライブへ出掛けたり、近隣への散歩やデッキへ出て子供たちと触れ合う機会を提供し、室内ばかりで退屈されないよう努めている。	桜・菜の花・紫陽花・ひまわり・コスモス等、季節のお花見に出かけている。また、年2回の日帰り旅行では、天草までドライブし、懐石料理を楽しむ等、外出支援は多い。また、コロナ禍以前は、ホーム周辺の散歩を日常的に行っており、また、再開してご近所の方々に挨拶して交流したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族と施設で管理しているが、金銭管理が出来る方には少額づつ持って頂き、希望があれば買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話を希望される方にはフォローしたり手紙が届いた時には本人様へお渡する等つながりを大事にするよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造平屋。神棚やタタミスペースもある。玄関先や玄関口には入居者様に生けて頂いたお花や植木等の植物を飾っている。入居者様が快適に過ごせるよう室温や消臭・空気の入替え、室内の明るさ等も配慮している。	オープンキッチンのあるダイニングは、ウッドデッキに繋がり、風通しもよく、開放感がある。幅広の廊下を挟んで居室が並んでおり、見守りがし易い設計になっている。訪問日、3人の入居者が一つの毛布に包まって、大きなソファでウトウトしている様子が見られ、安心と心地よさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにはくつろげるソファの空間とタタミスペースも設置。デッキにも椅子があり、時にはデッキの椅子にて外の空気に当たり気分転換出来るような支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や家電・寝具等、以前から慣れ親しんだ物や思い出の品を自由に持ちこまれており、自宅で過ごしているような安心出来る雰囲気的环境を提供している。	花柄の寝具・化粧品・姿見のある女性らしさを感じさせる部屋、大きな仏壇やテレビが置かれている部屋等、安全とそれぞれの居心地よさに配慮した部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには認識出来るよう表示を掲げている。又浴室、トイレ、廊下には手すりを設け動線上には障害物等置かないよう安全にも配慮している。		